



第31回通常総会並びに研修会開催 新会長に小森強志氏就任

当協議会の第 31 回通常総会が、7 月 24 日に大阪市淀川区宮原のメルパーク大阪で開催されました。来賓として、FAMIC (独立行政法人農林水産消費安全技術センター) 神戸センターの山谷昭一所長、同センター肥料検査課の松崎学課長、同じく山本祐司主任調査官にもご出席頂きました。

今総会は 62 会員中、24 社が出席、35 社が委任状を提出されて成立。肥料取締法に関する研修会の開催などの今年度事業計画案の審議や、2 年に一度の役員改選も行われ、役員改選では宮入利和会長が退任され、新たに(株)JOYアグリスの小森強志社長が新会長に就任されました。

また、総会終了後には山本祐司主任調査官による「肥料取締法に関する最新情報の提供」と、目白大学・同大短期大学部非常勤講師の大出英子氏による講演会「女性から見た肥料・培養土とは？」が行われました。



宮入利和会長あいさつ



今年上半期の一番の話は、やはり我々に大なり小なり関係のある消費税 8 % への増税かと思います。我々の家庭園芸業界でも (消費の落ち込みなどが) 心配されましたが、思いのほか大きな変化はありませんでした。しかし、

この春の園芸シーズンは、今一つ活況を呈さない市況だったと思います。これはあくまで私見ですが、一消費者としてホームセンター・専門店様の売り場を見ると、なかなか植物に目新しいものがなく、マンネリ化しているのではないのでしょうか。我々の用土や肥料は、メインの植物が売れないとお客様の元まで届きません。

一段と高齢化が進む中で、家庭園芸業界では新たなユーザーを獲得しなければなりません。昨今いろいろな業界でクオリティーを求め始めており、一時期 250 ~ 280 円で売られていた牛丼が、安売りを辞め、380 円の新たな価格設定で展開しています。我々が携わる用土・肥料は地域差もありますが、大変安価な、品質内容の不透明な商品が多数みられます。これからの園芸人口をさらに拡大し、活性化するために、より品質のよいもの、安全安心な商品を市場に展開するお手伝いをするのが、われわれ家庭園芸肥料・用土協議会の一つの意義であり、会員各社のご努力、ご協力がなくてはならないものと痛感しています。

平成 2 年度新役員

▷ 会長 = (株)JOYアグリス 小森強志 ▷ 副会長 = 中島商事(株) 中村吉之、(株)ハイポネックスジャパン 村上恭豊 ▷ 理事 = 旭化学工業(株) 大原詔雄、住友化学園芸(株) 野口等、(株)刀川平和農園 刀川貴美子、(株)東商 大石敏也、日清ガーデンメイト(株) 綿谷善孝、(株)花ごころ 小塚純一、フマキラー(株) 大下一明、レインボー薬品(株) 加々美隆信、朝日工業(株) 森田修一 ▷ 監事 = (株)サカタのタネ 坪田吉啓、タキイ種苗(株) 河村良司 (以上敬称略)

小森強志 新会長あいさつ



私たちが関係している肥料・用土を取り巻く環境は、消費税増税の影響度は別としても、大変厳しい春であったと思います。消費者の皆様が生活にゆとりを感じないと、なかなか家庭園芸まで支出が回らないのかなと考えます。

ただこのような状況だからこそ、私たち、肥料・用土に関係する会員各社が一同に会して、本当に消費者の方に安心・安全で、きれいな花が咲いたり美味しい果実がなったりする肥料・用土を提供する必要があると考えます。また監督官庁である農林水産省やFAMICの方々のご指導やご協力によって、消費者の皆様が安心して手に取って頂ける肥料・用土を業界全体で生産していく必要性はより高まっています。

皆様ご存知のとおり、中国で起こった鶏肉品質事件で食品業界は大変な事態となっています。これからこの事件の影響がどのような展開をするのかわかりませんが、今、私たちに求められていることは、安心して使える商品を提供していくことであると再度認識していきましょう。

家庭園芸肥料・用土協議会は、公定規格の研修会を毎年開催し、関係各位のご協力で、農林水産省、FAMICの幹部の皆様のご参加を頂き、色々な問題を討議しています。微力ではありますが、当協議会は、会員各社のお役に立てる情報を、一生懸命伝えていきたいと思っておりますので、今後も皆様のご協力を宜しくお願い致します。

来賓祝辞

独立行政法人 農林水産消費安全技術センター
(FAMIC) 神戸センター

山谷昭一 所長

国際的なリン資源の枯渇をはじめ、原料供給のひっ迫、価格の高騰、また重油等のエネルギー価格の高騰、消費税の増税など、肥料を取り巻く情勢はかなり厳しいと聞いております。家庭園芸用の肥料・用土はガーデニングには欠かせない資材であり、会員の皆様方のご努力はなみなならぬものがあると思料しています。民間の調査会社の資料によれば、ガーデニング市場はレジャー農業人口の増加を背景に堅調と聞いていますが、そんな中で家庭用肥料の安



定供給と品質向上にご努力されている協議会の役割はますます重要になっていくものと考えています。

今年の1月には牛肉骨粉について肥料利用が再開され、法律改正が既になされています。これらの牛肉骨粉のリスク管理措置が始動しようとしており、牛肉骨粉以外の牛由来の原料についても、法律改正に向けた作業が順調に推移していると聞いています。加えて、5月には農林水産省と我々FAMICが、共同で肥料の公定規格に関する標準手順書を作成しました。これは肥料の規格改正の透明化を図り、より公正な規格改正手続きを進めていくためのものです。

肥料情勢について

独立行政法人農林水産消費安全技術センター神戸センター 山本祐司主任調査官

本年度は、平成26年1月8日付けで使用できるようになった牛肉骨粉に続いて、牛由来の肉かす等の原料を肥料に利用できるよう関係省令等の改正手続きを進めています。

牛由来の原料を原料とする肥料は、必ず管理措置を行うこととなります。管理措置とは、肥料を生産する際に、①農林水産大臣が指定する摂取防止材（消石灰（全重量の5%以上）、とうがらし粉末（全重量の5%以上）、パームアッシュ（全重量の10%以上）の3種類のいずれか）を使用、②化学肥料等（副産物原料から生産されたもの以外及び有機質原料以外の原料）を全重量の50%以上の含有量となるよう配合、③動植物質以外の原料で被覆、という3つの摂取防止措置に加え、肥料を生産する工程において、①空気を遮断し、800℃以上の状態で8時間以上加熱、②空気を流通させ、1,000℃以上で燃焼、③1,000℃以上で熔融、④アルカリ処理（水酸化ナトリウム溶液又は水酸化カリウム溶液と混合して85℃以上で1時間以上行う処理で、混合後の溶液中の水酸化ナトリウム又は水酸化カリウムの濃度が2.3mol/L以上のものに限る。）、⑤133℃以上及び3気圧以上で20分以上蒸製、という5つの加工措置（原料加工措置）があります。原料加工措置については、製造工程について農林水産大臣の確認が必要です。また、摂取防止措置又は原料加工措置が行われるまでの間、供給管理票により肥料の原料の流通行程を管理するための措置が必要となります。

さらに、摂取防止材を使用した場合、肥料の保証票には、摂取防止材の名称及び使用割合を表示する必要があります。ただし、摂取防止材が使用された肥料を原料、

二次使用する場合、配合前の摂取防止材の使用量は表示を省略できます。また、牛肉骨粉同様、牛由来のたん白質を含む肥料は容器に表示を義務付けられるようになります。

次は、平成26年5月7日に作成した「肥料取締法に基づく公定規格等の設定・見直しに係る標準手順書（SOP）」について、紹介します。これまで、事業者の要望を踏まえた公定規格の設定にあたっては、その手順がはっきりと文面化されていませんでした。この手順書を示すことにより、公定規格の設定、手順を明確にし、審査の透明性と一貫性を確保していきます。また、肥料によるリスクをどのように評価していくか、安全性評価手順を作成し、新たな肥料や肥料原料に係る安全性の評価に対応できるようしたいと考えています。

最後に、肥料分析法へのクライテリア・アプローチの導入があります。クライテリア・アプローチとは、一定の基準を満たせば分析法を自由に選択できる方式のことです。現行の肥料分析は国の機関（独立行政法人農業環境技術研究所）が定めた「肥料分析法」で行う必要がありますが、これを一定の規準（クライテリア）を満たす試験法ならば、民間の分析者が分析の方法を自由に選択でき、それぞれ適した又は習熟した試験法を使用できるようにするというものです。管理分析コストの低減、品質管理の推進にも繋がると考えており、現在、早期の導入を目指して、検討を重ねている段階です。

女性から見た肥料・培養土とは？

目白大学・同大短期大学部非常勤講師

大出英子氏

総務省の統計では、高齢者全体の68.7%が「趣味・娯楽」で行動しており、その内の男性37%、女性38%がガーデニングを趣味としています。これは高齢者の趣味の第1位です。ネットの統計では、40%の人が自宅でガーデニングをするというデータがあり、その中で一番ガーデニングをするのは一戸建。しかも、自分の持ち家が55%に対して、賃貸・借家は37%と落ちます。集合住宅のベランダ・ガーデニングは35%です。

ガーデニングする理由の一番は、「好きだから」ではなく「植物があったほうがいいから」で、家に植物があったほうがよいという意識でやっている人が多いようです。5番目に「家の雰囲気作り」もあり、基本的に「好き」より、「あった方がいいから」ガーデニングをしているようです。

このアンケートでは、ガーデニングを「とてもやってみてみたい」人は8.5%、「少しやってみてみたい」は47.2%。この結果を見て「半分以上の人がやってみてみたいと回答した」と分析していますが、いい方に解釈しているだけで、「少しやってみてみたい」という人は、はっきり言ってほとんどやりません。「とてもやってみてみたい」という人たち以外は、ほとんどやらないと考えた方がよいでしょう。私はガーデニングをしない人の半分以上は、やる可能性は少ないと思います。

だから、ガーデニングの購買意欲を高めるには、ガーデニングをしない人はそれほど対象とせず、ガーデニングをやっている人たち、やったことがある人たちを対象にした方が伸びるのではないかと思います。

一戸建て、集合住宅共にガーデニングをする人の土を買う比率は高いと思いますが、買うのはベランダ園芸の最初の土がない時などで、一度買うとしばらく買わないと思います。これは私がいろいろな人と会う中で感じていることです。

一般の皆さんが、土を選ぶ時の一番のポイントは、やはり「安い」です。最初に安い土に飛びつきますが、安い土はすごく失敗が多いので、私は「安い土は買わない」と言っています。消費者は安い土にとびつくと、安い土はどうだ



ろうと思っている人も多い。一方、高い土でも成功するとは限らない、と思っている消費者も多いので、本当に土は分かりません。光を遮断しなければいけないので、パッケージの中が見えない土も多いのですが、消費者からすると中が見えないのは不安なので、小窓を付けてもらえると有難いと思います。

私は土を勧める時には「(初めから)混ぜてあるものを使えば十分ですよ」と話しています。混ぜるのは、重労働、

面倒くさい、汚れる、埃が立つ、とマイナス面がすごく多い。ガーデニングが好きでも、できたら汚れず、余分なものも出ずにしたいという人は多い。失敗のない土がもっとももっと多くなったらいいと思います。

それから土の種類が多すぎて、何を使ってよいか分からなくて失敗したという人も多くいます。失敗の原因を「『野菜の土』を使ってしまったから」という人もいますが、それは直接的な問題ではなく、管理の問題を土のせいにしていないかと思います。

私は東京農大の成人学校の園芸部で教えていましたが、肥料は必ずやらなくてはいけないモノと思い込んでいる人が多く、だから次から次へとやったり、濃いものをやってしまうでしょう。

肥料の成分表示まで見ている人は少なく、〇〇用の肥料と書いてないと不安なので、野菜用、花用、ラン用などを、(いくつも買って)持っている人が多くいます。

ガーデニングをしない理由に「むずかしそうだから」「面倒くさいから」というのがあります。ガーデニング売場に行くと資材でも土でも、とても種類が多く、どれを選べばよいか分からなくて、面倒くさくなってしまう人も多いのかなという気がします。肥料も土も、シンプルな方がいいと思っています。

ガーデニング初心者は、心配だからいろいろ買っていますが、失敗すると続かず、余計ガーデニングは面倒くさいからもうやらない、という具合になります。

ガーデニングは楽をして、きれいで、癒されてというのがいいと思うので、(自動灌水装置などの)便利な道具はど

んどん使って枯らさないようにしたほうが良いと思っています。土だけでなくトータルでガーデニングを楽しむ方法を提案し、長く続けられるように、楽をする方法も提案していく必要があると思います。

野菜用肥料、花用肥料など、買う人はしょっちゅう買っていて、消費としては有難い話ですが、おそらくやり過ぎではないかと思えます。ガーデニング教室に来ている農家の女性でも、や



はり肥料は感覚的に選んでいて、特に成分比の数字などは見ていません。月に一回、週に一回くらいという感覚でやっている人が多く、選ぶ時に数字や内容を見て買ってはいません。それからアンプルを買っている人も多く、挿してあるのを見ると安心するようです。

男性と女性では、園芸の内容にすごく差があるように思えます。男性の場合、野菜や花木の比率が高く、女性は草花が多い。男性がしているのは庭木、花木、野菜等が多く、ガーデニングというイメージとはちょっと違う気がします。肥料、土、農薬などにこだわるのも男性です。土づくりも、教本通りにやるのは男性の方で、書いてあることをきちんと守り、資材も書いてある通りのものを買ってきます。女性は100均のものでも平気です。

俗にいうイングリッシュガーデンは、女性の90%以上が素敵というのに対して、男性の半分以上はどこがいいのかわからないと言います。男性の、特に高齢者は、くっきり色分けした昔の毛氈花壇のような花壇をきれいと思う人が多いようです。女性は植物の性質や土、肥料にあまりこだわらないのに、土や植物の知識が必要な英国のボーダーガーデンが好きで、男性は几帳面なのに毛氈花壇や、庭木などが好きです。男性と女性はこんなに違うのかと、思ったことがありました。

女性でも地域のリーダーになりたくて来ているような人は、植物の学名を一生懸命覚えようと細かく聞いてきます。そんな人でも、肥料は花用と書いてあればいいという程度。女性にとって、肥料・培養土は面倒くさく、何を買っているかわからないモノなのです。

ホームセンターに行くと土の種類は更に多くなります。皆さんが土を買うのは大体、ホームセンターですから、その地域で有力なホームセンターが扱っている土が、売れる土ということになります。消費者は最初に植物を選ぶ段階で十分に悩んでいるので、あまり土や肥料の種類が多いと悩むし、困って、てっとり早く、安い、知名度の高いものを選んでしまいますが、それでも安い土には、何が入っているのかわからないという不安を持っているんだということは、分かってほしいと思います。

会員紹介 ◇毎回、会員リスト掲載順に紹介しています◇

自然応用科学株式会社

〒480-1203

愛知県瀬戸市広之田町 36 番地

TEL0561-42-0099 FAX0561-41-1068

メール：garden@shizen-ok.co.jp

自然応用科学(株)は、「人が地球にできること」をテーマに、総合的緑化ビジネスにより環境問題に取り組んでおります。厳しい品質管理のもと、良質な「堆肥」「培養土」等を製造。家庭園芸分野の他、農業関連、公共事業等において、厚い信頼を頂いております。特に土のリサイクル材「まくだけで甦る」は、その効果・実績において高い支持を頂いており、当社の看板商品となっております。

ホーネンアグリは、農業県「新潟」の水稻培土、各種専用培養土、有機質土壌改良材の専門メーカーです。高温殺菌粒状土、発酵モミガラ及びその他有機質資材を徹底した品質管理のもと、自社生産しています。これからも高品質な培養土、堆肥、土壌改良材をご提供し、有機質資源（バイオマス）を有効活用した循環型社会の実現に貢献する土づくり専門メーカーとして、日本の土づくりを変えていきます。

株式会社ホーネンアグリ

〒949-5414

新潟県長岡市飯塚 1986 番地

TEL0258-92-3890 FAX0258-92-3350

HP：http://www.honenagri.com

事務局より

新入会員のお知らせ

次の3社にご入会いただきました。

株式会社 コバヤシユニオン (平成25年7月26日・途中入会)

株式会社 大 張 (平成26年7月24日)

株式会社 瀬戸ヶ原花苑 (平成26年7月24日)

家庭園芸肥料・用土協議会は、家庭園芸の安全で健全な振興のために、メーカー企業有志により昭和59年(1984)に設立されました。

家庭園芸肥料・用土協議会

〒174-0054 東京都板橋区宮本町 39-14 公益財団法人日本肥糧検定協会内

TEL 03-5916-3833 FAX 03-5916-3828 http://www.a-hiryo-youdo.com/